

第78回日本体力医学会大会 プログラム・予稿集
正誤表

下記の通り、訂正いたします。

該当箇所	頁	誤	正
大会日程 9月2日(月)	4	シンポジウム 5 マイオカインの分泌機構	シンポジウム 5 <u>マイオカイン分泌研究の潮流と多様性</u>
大会日程 9月4日(水)	8	持久走大会表彰式 Meet The Legend	持久走大会表彰式
大会日程 9月4日(水)	8	一般演題 O36 座長：江島 弘晃	一般演題 O36 座長： <u>廣野 哲也</u>
大会日程 9月4日(水)	8	一般演題 O41 座長：廣野 哲也	一般演題 O41 座長： <u>江島 弘晃</u>
プログラム	29	追悼シンポジウム 演者：Wenyuan G. Zhu	追悼シンポジウム 演者： <u>Troy A. Hornberger</u>
プログラム	30	マイオカインの分泌機構	<u>マイオカイン分泌研究の潮流と多様性</u>
プログラム	37	持久走大会表彰式 Meet The Legend	持久走大会表彰式
プログラム	44	O23-2F-01 長期間の持久性運動トレーニングが脳血管拍動性指数に与える影響 産業技術総合研究所 菅原 順	<u>PO-152</u> 長期間の持久性運動トレーニングが脳血管拍動性指数に与える影響 産業技術総合研究所 菅原 順
プログラム	48	一般演題 O36 座長：江島 弘晃	一般演題 O36 座長： <u>廣野 哲也</u>

該当箇所	頁	誤	正
プログラム	50	一般演題 O41 座長：廣野 哲也	一般演題 O41 座長： <u>江島 弘晃</u>
プログラム	58	9月4日(水) 16:00~17:00(奇数) 17:00~18:00(偶数) H会場	9月4日(水) <u>11:00~12:00(奇数)</u> <u>12:00~13:00(偶数)</u> H会場
指定演題 抄録 【追悼シンポジウム - 3】	91	Wenyuan G. Zhu 1, 2,	<u>Troy A. Hornberger</u> 1, 2,
指定演題 抄録 【シンポジウム 5】	104	シンポジウム5：趣旨 マイオカインの分泌機構 高田真吾 ¹ , 眞鍋康子 ² (¹ 北翔大学, ² 東京都立大学) 世界の骨格筋研究で主要な役割を果たし、その進展に多大な貢献をしてきた。骨格筋の機能と量を高く保ち、筋機能を健全に維持することが、超高齢社会をよりよく生き抜くすべとなることを示している。骨格筋と健康の因果関係は不明な点が多いが、萌芽期の現在でも非常に興味深い医学・生命科学の発見がなされている。運動による全身効果(臓器間コミュニケーション)の機序の一つとして、筋収縮により分泌する生理活性物質(マイオカイン)の重要性が示唆されている。しかしながら、その分泌に関して不明な点が多い。分泌に関する筋、刺激、機構について議論する。近年、広義のマイオ	シンポジウム5：趣旨 <u>マイオカイン分泌研究の潮流と多様性</u> 高田真吾 ¹ , 眞鍋康子 ² (¹ 北翔大学, ² 東京都立大学) <u>本邦は、世界の骨格筋研究で主要な役割を果たし、その進展が人々の健康へ多大な貢献をしてきた。また、運動により骨格筋の機能と量を維持することが、健全に生き抜く術となる。運動が健康をもたらすことは複数の疫学調査によって明らかにされてきたが、なぜ運動が健康をもたらすかについては未解明の部分が多い。近年、運動による全身効果(臓器間コミュニケーション)の機序の一つとして、骨格筋収縮により分泌する生理活性物質(マイオカイン)の重要性が示唆されている。しかしながら、マイオカイン研究の主流は、新たなマイオカインの</u>

該当箇所	頁	誤	正
		<p>カイン研究が進み、「運動と健康」の仕組みを解明するカギとなる生理活性物質として注目を集めている。分泌様式 生理作用について議論されてきた。もう少し根本的な分泌に関して、頭を悩ませるべき マイオカインが広く知られるきっかけとなったのは、2003年にデンマークのペダーセン教授がマイオカインの一種、IL-6を発見したことに始まる*1。それまで、運動が健康をもたらすことは複数の疫学調査によって明らかにされてきたが、なぜ運動が健康をもたらすかについては未解明の部分が多かった。そこで研究のターゲットとなってきたのが骨格筋だ。骨格筋は体重の約40%を占める人体最大の臓器で、身体活動を支えるとともに、血液中の糖や脂質の多くを消費する「代謝臓器」でもあるからだ。そしてこの骨格筋はマイオカインの分泌臓器でもある。2003年に「マイオカイン」が定義づけられて以降、発見されているマイオカインは数十種に及ぶ。マイオカインは骨格筋が運動や活動によって収縮するとき分泌され、筋肉だけでなく全身の臓器や組織とコミ</p>	<p><u>発見やその生理作用の解明であり、分泌機構に関して不明な点が多い。したがって、本シンポジウムでは、マイオカイン研究に用いる培養様式、分泌機序、分泌の解析方法について議論する。</u></p>

該当箇所	頁	誤	正
		コミュニケーションをとり、機能を調節していることが分かってきた.	
一般演題 抄録 口頭発表	207	O23-2F-01 (呼吸, 循環) 末梢循環 長期間の持久性運動トレーニングが脳血管拍動性指数に与える影響 ○菅原 順 1、東本 翼 1、Zhang Rong ^{2,3} 、樽味 孝 1 (1 産業技術総合研究所、 2 テキサスヘルスプレビステリアン病院、 3 テキサス大学サウスウエスタン校)	<u>PO-152</u> (呼吸, 循環) 末梢循環 長期間の持久性運動トレーニングが脳血管拍動性指数に与える影響 ○菅原 順 1、東本 翼 1、Zhang Rong ^{2,3} 、樽味 孝 1 (1 産業技術総合研究所、 2 テキサスヘルスプレビステリアン病院、 3 テキサス大学サウスウエスタン校)
索引	299	菅原 順 O10-1F-02 O20-2F-06 <u>O23-2F-01</u> O23-2F-04	菅原 順 O10-1F-02 O20-2F-06 O23-2F-04 <u>PO-152</u>